

第5回自動翻訳シンポジウム

～2025年に向けたグローバルコミュニケーション技術～

令和4年3月11日、「2025年に向けたグローバルコミュニケーション技術」と題し、「第5回自動翻訳シンポジウム」がオンラインにより開催されました。シンポジウムでは、翻訳技術の進化による「言葉の壁のない世界が見えてきた」をテーマに、有識者による講演やパネルディスカッション、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）が開発する翻訳エンジンを活用した国内企業（16社）の製品・サービス等のオンライン展示などが行われました。

最初にグローバルコミュニケーション開発推進協議会 須藤修会長より開会挨拶が行われ、ニューノーマル時代に向けた言葉の壁の解消と、2025年の大阪万博でのAIによる自動翻訳実現に向けた取組が説明されました。

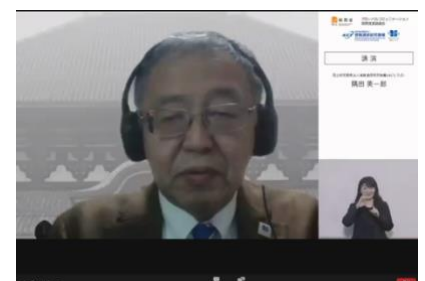
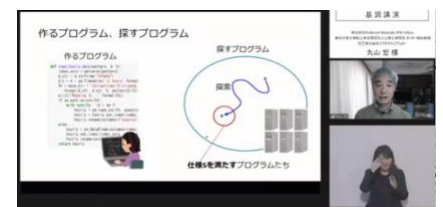
続く、金子恭之総務大臣による主催者挨拶では、総務省によるAI同時通訳技術への取組強化と、2025年大阪万博におけるAI自動翻訳技術の成果を、世界へ発信する意気込みが語られました。

その後の基調講演では、株式会社Preferred Networks PFN フェロー、東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任教授、花王株式会社 エグゼクティブフェローの丸山宏氏による「Software2.0とデジタルトランスフォーメーション」と題し、「世の中の価値の源泉がモノからソフトウェアに移りつつある」ということが説明されました。丸山氏は深層学習の登場によってソフトウェアの開発方法が根本から変わり、「作るプログラミング」から「探すプログラミング」へシフトしていると説明します。プログラムとは、「このようなプログラムを作りたい」と考え設計して作るモノだったものが、プログラム全体の巨大な空間の中から、自分が欲しいプログラムの部分集合を探してくるものへと変わってきたと話しました。

デジタルトランスフォーメーションについての話では、IT登場以前は給料を渡す時に人が手作業で現金を封筒に仕分けしていたことを例に挙げ、人が行っていたプロセスをITに置き換えたことが、ITイノベーションの第1フェーズ「効率化」だと説明します。また、ITが無ければビジネスが成り立たないAmazon、Uber、マッチングサービスなどのサービスを例に挙げ、「ITで可能になるビジネス創出」という第2フェーズへの移行こそが、デジタルトランスフォーメーションと呼ぶものであると説明しました。

続くNICTフェロー、隅田英一郎氏からは、「自動翻訳の素材を蓄える翻訳バンク」と題する講演が行われました。

自動翻訳の研究が開始されてから75年となり、現在の技術は一般に使用できるレベルにまで到達したが、これは、関係諸団体から得た大量のデータが翻訳バンクに提供されたことで精度の大幅な向上につながっていることなどが説明されました。（内容の詳細については、当該講演の記事をご覧ください。）



最後に、「2025年に向けた多言語翻訳の将来展望」というテーマで、NICT上席研究員・内山 将夫氏をモデレーターとし、株式会社Preferred Networks PFN フェロー・東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究センター 特任教授・花王株式会社 エグゼクティブフェロー・丸山宏氏、ソースネクスト株式会社 常務執行役員兼CTO・川竹一氏、マインドワード株式会社 代表取締役CEO・菅谷史昭氏の3名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、3人によるこれまでの経験をもとにしたプレゼンテーションが行われました。プレゼンテーションの後には、「言葉の壁は2025年にはどのくらい解消されていると思うか?」という質問や、「音声ではなく文字翻訳の可能性」、「自分が使用した翻訳エンジンを別のものに切り替える時のポータビリティ性」など、いずれも自動翻訳の最先端研究を行うパネラーらしいディスカッションが行われました。(内容の詳細については、当該パネルディスカッションの記事をご覧ください。)



シンポジウムの最後は、NICTの 徳田英幸理事長から、「グローバルコミュニケーション計画2025」に基づき、言葉の壁を意識することの無い自由なコミュニケーションを実現するための取組推進への方針が述べられシンポジウムは締めくくられました。

(令和4年3月作成)



問い合わせ先

主催：総務省、グローバルコミュニケーション開発推進協議会、
国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)

グローバルコミュニケーション開発推進協議会事務局
(NICT 内)

gcp-info@ml.nict.go.jp